

検査当日は同意書のご持参を忘れずに !!!

CT 検査予約票

ID : 患者様氏名 : 様

検査日 : 検査予定時間 :

検査部位 : 依頼科 : 病棟 :

造影 CT 検査をうけられる方へ

- (1) **検査予定時間の 15 分前に、CT 検査室に直接**おこしてください。
検査内容により予定時間が前後することがありますのでご了承ください。
- (2) **この用紙（CT 検査予約票）と造影 CT 検査問診票（同意書）提出用**にご記入、ご署名の上、検査当日は診察券とご一緒に CT 検査室受付へ提出してください。
- (3) **食事について**：検査 4 時間前から食べないでください。
- (4) **水分について**：検査 2 時間前から水分（水・お茶・スポーツドリンク等）を 500mL 程度ゆっくりとお飲みください（造影剤による副作用防止・軽減のため）。水分制限のある方は制限内でお飲みください。ただし、牛乳などの乳製品はお止めください。

食事・水分について



4 時間前から絶食



2 時間前から
500mL の水分摂取

特記事項

採血 食事
水分

- (5) **血液検査のある方**：可能な限り CT 検査の 1 時間前に採血を済ませてください。採血室の混み具合によって、採血をお待ち頂く場合があります。
3 ヶ月以内に採血されていない方は、採血結果が出るまでお待ち下さい。
- (6) **薬の服用について**：ビグアナイド系糖尿病（メトグルコ・メトホルミン・メタクト・グリコラン・エクメット・ジベトス・ジベトン S・イニシンク・ブホルミンなど）を服用されている方は、検査日前 48 時間・後 48 時間は服用しないで下さい。造影剤を使用した CT 検査が出来ません。また、お薬の説明書もしくはお薬手帳などをお持ちの方は、当日持参してください。
- (7) 心臓ペースメーカーを装着されている方は、ペースメーカー手帳を必ず持参してください。
- (8) インスリンポンプ・持続グルコース測定器等の機器を装着されている方は検査時に取り外して頂きます。

※ 検査は予約制になっていますので、当日都合で来られない方は下記へご連絡ください。

連絡先：独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

TEL (06)-6942-1331

～造影 CT 検査をうけられる方へ～

1. この検査で使用するヨード造影剤は、病気の診断や、状態を明らかにすることに役立ちます。この薬は安全な薬剤ですが、次のような副作用があります。
 - 1) 軽い副作用：吐き気、嘔吐、動悸、かゆみ、発疹などが、5%以下の割合でおこります。
 - 2) 重い副作用：血圧低下、呼吸困難、意識障害などが、およそ2万人に1人の割合でおこります。注射や点滴、重症の場合は気管内挿管などの処置を行う場合があります、時には後遺症を残すことがあります。
 - 3) 死亡：病状・体質によっては、およそ40万人に1人で死亡例が報告されています。
 - 4) 造影剤の注射中に、血管の外に造影剤がもれることがあります。少量もれた場合は特別な処置は必要ありません。造影剤が多量にもれた場合は、皮膚を切開するなどの処置が必要になることがあります。また、注射部位やその周辺の痛み・しびれが残る場合もありますが、非常にまれです。検査中は医師や看護師が患者様の様子を観察しています。万一、重篤な副作用が起きた場合は、迅速に処置を行なえるように万全の体制を整えております。

2. ヨード造影剤の禁忌

ヨード過敏、ヨード造影剤副作用の既往、気管支喘息の方は、重い副作用が発生する確率が高く、造影剤を使用できません。
また褐色細胞腫、骨髄腫、マクログロブリン血症、テタニー、重篤な甲状腺疾患、腎機能低下、重篤な心疾患などの疾患の方、ならびに糖尿病のお薬を飲んでおられる方は、造影検査ができない場合があります。

3. 検査前の食事

検査の4時間前から食べないでください。水分はCT検査予定時間の2時間前からお茶、水、スポーツドリンクなどを500mL程度補給してください。

4. 検査時の注意

造影剤の注射中に体全体が熱く感じるがありますが、数分で治まり心配ありません。注射中に針の周囲が痛い場合や、「気分が悪い」・「息苦しい」場合は、ただちにお知らせください。

5. 検査後の注意

ヨード造影剤を注射したあとは、水、お茶などの水分をいつもより多く飲んでください。特に次のような場合は、注意してください。

- 1) 医師により水分制限をされている方は、医師の指示どおりにしてください。
- 2) まれに造影剤注射後数日たってから、じんましん、むくみ、血圧低下などの副作用が現れることがあります。その際は当センターにご連絡ください。

6. ビグアナイド系糖尿病薬服用のかたへ

糖尿病のお薬（メトグルコ錠、メトホルミン塩酸塩錠、グリコラン錠、イニシンク配合錠、メタクト配合錠、エクメット配合錠、メトアナ配合錠、ジベスト錠、ジベトンS腸溶錠、ブホルミン塩酸塩錠など）を飲んでおられる方は、検査日前 48 時間・後 48 時間、糖尿病（上記）のお薬を服用しないでください。

7. 授乳中のかたへ

通常通り、授乳して頂いてかまいません。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
TEL (06)-6942-1331

造影 CT 検査問診表 提出用

必要事項にご記入の上、検査当日 CT 室にご提出ください

1. 造影剤（注射や点滴）の検査を受けたことがありますか？

☐ なし、初めてです。 ⇒ 2 の質問にお進みください。

☐ あり ⇒ CT・MRI・腎臓の検査・血管造影・その他 (.....)

造影検査で副作用がありましたか？

☐ なし ☐ あり ⇒ はきけ・嘔吐・かゆみ・じんましん・くしゃみ・鼻づまり

その他、具体的にお書きください (.....)

2. 喘息（ぜんそく）といわれたことがありますか？

☐ なし ☐ あり

※ 過去5年間に吸入やお薬を飲んでいますか？ ☐ なし ☐ あり (.....)

3. アレルギー（薬、注射、食べ物など）はありますか？

☐ なし ☐ あり ⇒ 抗生物質・痛み止め・そば・花粉・その他 (.....)

4. 現在、糖尿病のお薬を飲んでいますか？

☐ なし ☐ あり ⇒ メトグルコ・メトホルミン・メタクト・グリコラン・エクメット・
ジベトス・ジベトンS・イニシンク・ブホルミン

その他 (.....)

5. あなたに最適な造影剤量の計算のため、体重をご記入ください。 (.....) kg

ヨード造影剤を使用する検査に対する同意書

検査の種類：

依頼科：

検査予定日：

以下の記載事項に同意されれば、同意したご本人または代理人の署名をお願いいたします。

同意事項

1. 主治医〔 (主治医署名) 〕からヨード造影剤を使用する検査の目的、必要性、副作用について十分な説明をうけて理解した。
2. 造影剤を使用すること、もし副作用が生じた場合にはそれに対する処置を受けること。
3. 造影検査の了承は、患者様本人または代理人の任意の同意に基づくもので、当院の医師の強引な説得や強制によるものではないこと。
4. 造影検査についてさらに詳しい説明を受けたいときは、適宜追加説明を受けることができること。
5. 患者本人または代理人は検査を受けることを同意した後、いかなる場合でも撤回ができること。

患者様氏名：

様

ID：

同意日 年 月 日 患者本人又は代理人（続柄 ）署名_____

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 放射線診断科

造影 CT 検査 同意書 患者様控え

ヨード造影剤を使用する検査に対する同意書

検査の種類：

依頼科：

検査予定日：

以下に記載する事項について同意されれば、同意したご本人または代理人の御署名をお願いいたします。

同意事項

- 主治医（ ）からヨード造影剤を使用する検査の目的、必要性、副作用について十分な説明をうけて理解した。
- ヨード造影剤を使用すること、もし副作用が生じた場合にはそれに対する処置を受けること。
- 造影検査の了承は、患者様本人または代理人の任意の同意に基づくもので、当院の医師の強引な説得や強制によるものではないこと。
- 造影検査についてさらに詳しい説明を受けたいときは、適宜追加説明を受けることができる。
- 患者本人または代理人は、検査を受けることを同意した後、いかなる場合でも撤回ができること。

患者様氏名：

様

ID：

同意日

年

月

日

患者本人又は代理人（続柄

）：署名

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 放射線診断科

CT/アイソトープ(RI)検査を受けられる方へ

本検査では、放射線を用いるため、僅かですが放射線被ばくを受けることになります。

放射線と発がんについて

大量の放射線に被ばくすると、がんのリスクが増えることが多くの研究で明らかになっています。しかし、100mSv 以下の放射線と発がんの関係については、科学的に明らかになっていません。

通常の CT 検査の放射線量は、撮影部位(頭部・胸部・腹部)や撮影方法によって異なりますが、1回あたり 5～30mSv で 100mSv を超えることはありません。

成人における CT 検査での典型的な被ばく線量

CT検査	実効線量* (mSv)	当院のCTDIvol (mGy)	診断参考レベル (mGy)
頭部	1. 8	41. 6	77
胸部	7. 8	9. 2	13
腹部	7. 6	11. 2	18

参考: *ICRP Publication 87

核医学(RI)検査で用いられる放射性物質は、時間が経つにつれ放射能が減る性質があります。核医学検査では、この減るスピードの早いお薬(放射性物質)を使っていますので、体内に残ることはありません。

核医学検査(RI)における被ばく線量

	実効線量* (mSv)
骨シンチグラフィ	3. 63
腎レノグラム	2. 1
ガリウムシンチ	11. 1
負荷心筋血流シンチ (99mTc製剤)	5. 85

参考: *ICRP Publication 87

放射線による発がんリスクを考える場合、放射線に少しでも被ばくすればがんのリスクは直線的に増えるという仮定を用います。原爆被ばく者のデータからは、1万人が 10mSv(CT 検査の1回分に相当)を受けた場合、その中で5人が放射線被ばくに起因するがんで死亡すると推計されます。

CT 検査で受ける程度の放射線によって、がんのリスクが増えるかどうかを実証することは非常に困難ですが、仮に1回の CT 検査で受ける線量が増えたとしてもそのリスクの大きさは他の要因によるがんのリスクと比べてかなり小さいと見積もられています。

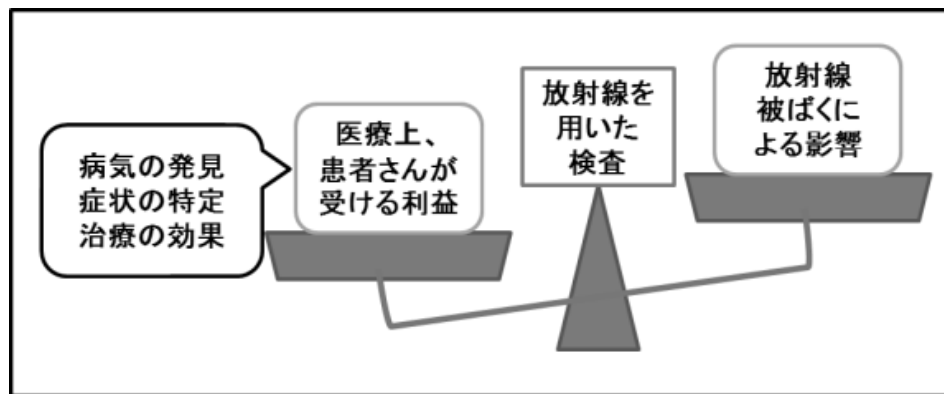
発がんリスクの要因

喫煙	1,000～2,000mSv相当
受動喫煙	100～200mSv相当
肥満	200～500mSv相当
野菜不足	100～200mSv相当
CT検査	5～30mSv相当

参考：発がんリスクを比べよう（環境省）

検査の正当性

放射線検査は、得られる医療情報による利益が被ばくによるリスクより十分に大きいと判断される場合に行われます。病気の発見や異変、治療効果など適正に検出し、最善の治療につなげるにより、患者さんの「生活の質」の保持・向上に寄与するために行うものです。



当院での被ばく低減の試み

当院では、診断参考レベルといわれる患者被ばくの適正化に使用される指標を用いて、照射線量を最適化しています。また、様々な被ばく低減技術を利用し、放射線量の低減を行っています。

国立病院機構大阪医療センター
放射線科